「お月見どろぼう」は楽しい泥棒

９月、仲秋の名月が近くなると、緑区のスーパーには巨大な特設お菓子コーナーが出現します。
その名も「お月見どろぼうコーナー」。他の市町村、のみならず名古屋市内でも西の方から来た方々は、きっと「なにごと？」と驚かれるに違いありません。

「愛知県史」には、旧暦八月十五夜の仲秋の名月は芋名月と称され、ススキや里芋、団子、饅頭などを供え、『この十五夜の芋名月には、尾張東部などで子どもによる「団子盗み」の習俗があり、現在も菓子をもらい歩く形式で続けられている地区もある』と、この行事を紹介しています。（１）
また、「名古屋市史」でも、八月十五夜に子どもがお供えを見つからないように盗って回る「月見泥棒」が公認されていたこと、「市内の広い範囲で行われていたが、戦後しばらくして見られなくなったところが多い。今、緑区などでは、子どもが菓子をもらい歩くようになっている」と記されています。（２）
「お月見どろぼう」の風習自体は、実は全国各地に残っているようです。インターネット上に「お月見泥棒」情報を集めるコーナーを見つけました。そこには三重県北勢地方をはじめ、愛知県では名古屋市緑区、名東区、日進、東郷、長久手など尾張東部地方、福島、茨城、千葉、静岡、大阪、宮崎などから、実施の情報が寄せられています。（３）

よく似た催しに、「地蔵盆」があります。近畿地方中心に行われているということですが、特に京都のものは有名です。（４）旧暦２４日、または新暦８月２４日の地蔵菩薩の縁日前後を「地蔵盆」と称します。地蔵菩薩は言うまでもなく子どもを守る仏様であり、「地蔵盆」は、子どもを中心として、地域の人々が触れ合う民俗行事です。そのさまざまな行事のひとつとして、子どもたちにお楽しみの「菓子くばり」が行われます。
他に、旧暦７月７日に子どもたちが蝋燭やお菓子をもらい歩くその名も「ローソクもらい」という類似の行事が、北海道地方を中心として残っているそうです。

現在では、子どもがお菓子をもらって歩くことで一番有名なものは「ハロウィーン」でしょうが、「お月見どろぼう」も、「日本版ハロウィーン」として知られつつあります。子ども会の行事として、あらたに始めるところもあるようです。
昔々の「お月見どろぼう」は、お供えを盗って食べることよりも、「気づかれないように盗ることに楽しみがあった」（１）とのことですが、現在の「お月見どろぼう」は少し姿を変えて、地域の人々や家族が、子どもたちと楽しくふれ合う格好の場になっているようです。
「緑区のお月見泥棒について」（山村幸雄／文・写真「緑歴史ひろば」２０１３年９月号掲載　緑区ルネッサンスフォーラム発行）に詳しい紹介があります。

参考文献：（１）「新修名古屋市史９　民俗編」（名古屋市　平成１３）p412、p614
（２）「愛知県史　別編　民俗２　尾張」（愛知県　平成２０）p６９０
（３）「わがまち四日市」（運営管理者不詳のためＵＲＬは記載しません）
（４）「京都をつなぐ無形文化遺産　京の地蔵盆」（京都市文化市民局文化財保護課）http://kyo-tsunagu.net/jizo/
（５）「緑区のお月見泥棒について」
（山村幸雄／文・写真　「緑歴史ひろば」２０１３年９月号掲載　緑区ルネッサンスフォーラム発行）

郷土の思い出　　　　許可を得て再録

緑区のお月見泥棒について

文と写真　山村 幸雄

この地域には「お月見泥棒」と呼ばれる伝統的な行事が伝えられています。

毎年、「中秋の名月」の夜におこなわれます。「こんばんは　お月見泥棒です」「ありがとうございました」の声が聞かれることでしょう。

地域の方々に聞くと「日進の方から伝わった」「昔から平手、徳重を中心に鳴海東部地域の農村でおこなわれていた」とか言われます。

９月の満月は「中秋の名月」と呼ばれ、全国でお月見をする習慣があります。月の登ってくる方向にススキを飾り立て、お月見団子や野菜・くだものをお供えしました。

月を神に見立てて、自然に感謝し、この日だけは、収穫された農作物を盗んでもよいという習わしがありました。

また、月に供えてあるお団子は、子どもたちが盗みにきても、とがめられることはありませんでした。

盗んだ団子を食べた子は強く育つと言い伝えられており、団子が盗まれるほど福が来ると言われていました。

「お月見泥棒」はこのように全国にあった伝統的行事の一つでした。ただし同じ市町村でも「お月見泥棒」が行われる地域と行われない地域があり地域限定行事です。

現在では買ってきたお菓子を袋に詰めて、子どもたちが来訪した時に渡していただいている家庭が一般的なようです。お菓子はこの時期、地域のスーパーで「お月見泥棒用」として販売されています。

「お月見団子」は全国では丸型が一般的ですが名古屋では里芋の形をしたお団子です。

子どもたちが訪れることから、同年代の子どもを持つご家庭や一人暮らしまたは老夫婦の世帯にとっては、子どもとのふれあいを楽しみにご準備をしていただいているようです。

鳴海東部地域のショッピングセンター店内に設けられた「お月見泥棒用お菓子コーナー」